



## 工藤篤子メールマガジン23号

2003.01.31

### ●ルーマニア・レポート

皆さんお元気でいらっしゃいますか？

1月15日～27日のルーマニアでの讚美奉仕を大きな祝福のうちに終えることができました。ハードスケジュールの中、健康も声も守られました。皆さんのお祈りに心から感謝いたします！

ところが26日の最後の讚美奉仕が終わった瞬間、

鼻がぐずつき始め、翌日27日には、「風と共に去りぬ」ではなく、風邪と共にルーマニアを去り、ハンブルクへ戻りました。今は家で休養中、皆さんにこのメルマガを書いています。

写真：イアシの第1教会にて賛美

---

## ■ルーマニア報告（1月15日～27日）

### ●1月15日～21日（ブラショフ、モルドバ地方、ブカレスト）

これまで22年間ルーマニア宣教のために働いてきた「ミッション・宣教の声」主幹の黒田禎一郎ご夫妻と共に、ブラショフからルーマニアの北東部のモルドバ地方（ポトシャン、スチャバ、イヤシ、パシュカン）、最後に首都ブカレストにて、合計7つの集会で奉仕をさせていただきました。

また、ルーマニア福音放送“Voice of the Gospel”からもインタビューを受けました。この福音放送を毎日数万のルーマニア人が聴いており、その中から多くの方が救われているそうです。

すべて黒田師のメッセージと私の讚美と証しのプログラムです。どの集会でも、会衆の皆さんは私たちの話しのいたるところで、「アーメン！」と同意の気持ちを表してくださいました。涙を流される方もいらっしゃいました。

また、500人の会員を持つポトシャンとイヤシの教会の子どもたちの純真な表情には、先進国の子ども達にはもう見られなくなってしまった輝きがありました。

10代の子も一生懸命、黒田師のメッセージをメモしていました。貧しい国の子だから輝きがあるのではなく、神のみことばによって養われているからなのだと思います。

### ♪ベルナルドことベルンハルト氏のこと♪

今回の一番の同労者は、ルーマニア在住の、長身のドイツ人、ベルンハルト・フェーダー氏です。ルーマニア人にはベルナルドと呼ばれ、パン屋さんを経営しています。彼は、私たちのスケジュール作成から、運転手、通訳と何から何まで心のこもった配慮をしてくださいました。

ルーマニアは、12世紀からたくさんのドイツ人が移民し、たくさんの商業都市を建設してゆきました。しかし、第二次大戦から、特にチャウセスクの共産国時代には、ドイツ人は大きく迫害されました。そのため、多くのドイツ人たちは、生活の安定と自由を求めて、自国へ帰ってゆきました。しかし、ベルンハルト一家は、ここで主のために働くようにとの主の召命を受け、多くの困難に耐えながらもこの地にとどまったのです。

そして今、彼はドイツのクリスチャンから援助を受け、人々の霊的修養と学びの地になるようにと、2000年にルーマニア最大のクリスチャン修養施設 “Casa de Elim(エリムの家)” を建てました。どうぞこのセンターの運営と祝福のためにお祈りください。

## ●22日～26日 (クルージュとその近郊)

9年前から、トランシルバニア地方の文化都市、クルージュを中心に宣教活動が続けてきた、川井勝太郎宣教師と共に、クルージュとその近郊の、合わせて6つの集会を回りました。こちらでもたいへん祝されました。決心者も数人起こされたようです。

### ♪ロマン (ジプシー) 集会♪

特に印象的だったのが、クルージュのスラム街、フロレシュティ地区にあるロマンの集会です。

私の讚美と証しの最中、彼らの「ハレルヤ！」の応唱はだんだん高まってゆき、それにつれて私の讚美も熱くなってゆきました。ここでの讚美ほど、主を身近に感じたことは、かつてありませんでした。最後に、彼らが喜びにあふれて、タンバリンとアコーディオンの絶妙なる伴奏にのせて、ロマ語の讚美歌を絶唱してくれました。ロマンも、主にある兄弟姉妹であることを感じました。

私がスペインに住んでいた頃、知り合いのアメリカ人宣教師がジプシー伝道に悪戦苦闘していたのを思い出しました。「ロマンたちは信仰に入ってもなかなか根付かない。」それは、ロマンたちの放浪の生活風習と、彼らの仏教に似た因果応酬の教え、占い、魔術などが原因でした。けれども、今、スペインでは、クリスチャン人口の多くをロマンたちが占めています。ここでも少しずつロマン宣教の働きが実ってゆくに違いありません。

暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、  
死の地と死の陰にすわっていた人々に、  
光が上った。(マタイ4:16)

## ●私感

1989年の革命後、共産主義から解放されたこの国は、今、大きく変わりつつあります。

この国は至るところで、1983年に私が留学した当時のスペインを思い出させます。1975年にフランコ独裁政権から解放されて8年を経過していたスペインは、ルーマニアほどではありませんでしたが、経済的にも精神的にもうまくバランスが取れず、混沌とした状態でした。スペインの場合は、その後フェリーペ・ゴンサレスという天才政治家によって国政がまとめられ、今ではヨーロッパで第3の経済国になりました。

スペインと同じラテン民族であるルーマニアはこれからどのようになってゆくのでしょうか。経済面では、スペインのように順調には行かないかもしれません。

しかし、ここではあちらこちらで霊的なリバイバルが起こり、革命の引き金となったティミショアラの町では、今、人口の半数近くが福音信仰をもっていると言われていています。また、国民の80%以上を占めるルーマニア正教徒の中に、福音派的な信仰を持つ人が増えているというのです。

混沌とした中で、人々は真に確かなものを求め始めたのではないのでしょうか。この国に、福音宣教が、神の御力によって大いに進められますように！

また、別の意味で混沌とした世に生きている私たちも、なくてはならないものから目を離さずに、主を証してまいりましょう！

---

## ■お祈りください

### ♪2月11日～20日、オスロでの奉仕のために♪

讚美コンサートは2月15日(土)16:00

Oslo Soendre Frikirke,

Loftrudveien 6,1281 Oslo

Mortensrud のショッピングセンターの6F

また、翌日、16日の聖日も礼拝で讚美する予定です。

もしオスロにお知り合いの方がいらっしゃいましたらお知らせください。

詳しいことは、オスロの Masako Fukuda Andersen さんまでご連絡ください。

Tel.+Fax: 47(ノルウェー)-22182993

### ♪風邪が完治しますように♪

次回は、オスロからお便りさせていただきます。

皆様もご健康にはくれぐれもお気をつけください。

主の祝福が皆様と共にありますように。

工藤篤子